

救急初期診療で活かされる臨床検査の技術

◎岩田 充永¹⁾

藤田医科大学救急医学・総合内科学講座¹⁾



【ご略歴】

藤田医科大学救急医学・総合内科学講座 主任教授

1973年9月12日 愛知県生まれ

1998年名古屋市立大学卒業

卒業後、名古屋市立大学病院、名古屋大学病院、みなと医療生協協立総合病院にて麻酔、老年科、内科を研修

名古屋掖済会病院救命救急センターにて救急医として勤務

2012年より藤田医科大学に異動

2014年より現職

2021年より藤田医科大学病院副院長併任

【講演趣旨】

救急診療の最初のステップは

内因性の重症疾患であっても、重症外傷であっても

臨床検査技師が持っている知識・技術が集約されています

- ・酸素投与方法
- ・静脈路確保と輸液
- ・バイタルサインの評価とモニター
- ・12誘導心電図
- ・超音波（POCUS）
- ・血液ガス検査

シンプルだが奥深い、臨床検査と救急初療の関りについてお話しさせていただきます